



愛知長久手ロータリークラブ 2022-23



WEEKLY

例会日=毎週火曜日 PM12:30 例会場=トヨタ博物館「小ホール」

会長 神谷恵理 幹事 青山和成 会報 小谷恒夫

Email: a.nagakuterc@aurora.ocn.ne.jp

事務局

TEL:0561-64-5446

FAX:0561-64-5459

未来を描こう、笑顔でつなごう

本日 第 870 回 2022 年 10 月 25 日(火曜日)

- ・点鐘
- ・ロータリーソング「奉仕の理想」
- ・会長挨拶
- ・委員会報告
- ・幹事報告

卓 話:「地区米山記念奨学委員会の活動をご理解ください」

卓話者: 米山記念奨学委員会
委員長 大橋 均君

前回 第 869 回例会 2022 年 10 月 18 日 (火曜日)

トヨタ博物館 小ホール

会員 総数 16 名

出席者 11 名

出席率 68.75%

【会長挨拶】

会長 神谷 恵理



皆さん、こんにちは。

本日は、今月は米山月間という事で、地区米山奨学委員会の大橋委員長に卓話に来て頂きました。大橋委員長、誠にありがとうございます。

今年度は、米山奨学生のユヘイさんも毎月例会に参加して貰ったりしているので、会員の皆様も何となくご理解頂けている事業にはなるのではないのでしょうか？

後程、大橋委員長より米山記念奨学事業については詳しく説明頂けるかと思われますので、私の方からは簡単に説明させていただきます。

ロータリーの基礎によりますと【ロータリー米山記念奨学事業】とは？

全国のロータリアンからの寄付金を財源として、日本で学ぶ私費外国人留学生に奨学金を支給し、支援する国際奨学事業です。将来、日本と世界を結ぶ「懸け橋」となって国際社会で活躍し、ロータリー運動の良き理解者となる人材を育成する事が使命です。

【米山記念奨学会の特色】

一番の特徴は、その規模です。米山奨学生の採用数は、2019 年は 868 人。総事業費用は 14 億 4 千万でした。世界規模で展開しているロータリー財団国際親善奨学生の年間採用数とほぼ同じです。これだけの外国人留学生の支援をしている奨学

団体は、事業規模・採用数とも日本国内では民間最大です。

先日も、ユヘイさんと一宮中央ロータリークラブさんに卓話に行かさせて頂いた時に、ロータリアンの方からスタジオを見学させて頂く事も出来ました。今後も、皆様がユヘイさんと色々交流して頂けることを願っております。

以上を持ちまして、本日の会長挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

【ニコボックス】

- | | |
|---|-------|
| ・本日は例会の貴重なお時間を米山記念奨学会にいただきありがとうございます。宜しくお願いいたします。 | 大橋 均 |
| ・大橋委員長、ようこそおいで下さいました。宜しくお願いいたします。皆様本日も宜しくお願い致します。 | 神谷 恵理 |
| ・地区米山記念奨学委員会 大橋委員長、ようこそお越し頂きました。本日は卓話宜しくお願いいたします。 | |
| 本日も宜しくお願い致します。 | 青山 和成 |
| ・大橋均委員長さま、本日の卓話宜しくお願い致します。 | 丹羽 司一 |
| ・大橋様、ようこそおいで下さいました。今日はよろしくお願い致します。 | 日野 典子 |
| ・本日もよろしくお願いします。卓話宜しくお願いします。 | 大島 昭夫 |
| ・地区米山記念奨学委員会 大橋委員長、本日の卓話楽しみです。宜しくお願い致します。 | 山田 文明 |
| ・本日もよろしくお願いします。 | 伊藤 真 |
| ・よろしくお願いします大橋委員長、卓話よろしくお願いします。 | 寺島 五雄 |
| ・お久しぶりです。本日もよろしくお願いします。 | 小笠原多恵 |

【卓話】米山月間卓話



「地区米山記念奨学委員会の活動をご理解ください」

地区米山記念奨学委員会

大橋 均 委員長

米山記念奨学会の事業は日本のロータリークラブ独自のものです。主な活動としては日本で学ぶ外国人留学生の支援を行っています。活動の特徴としては、世話クラブカウンセラー制度により日本の社会人との交流を重視しています。春は企業訪問、秋は歴史訪問を行い、今春はトヨタ博物館に奨学生を連れて行きました。秋は徳川美術館と徳川園に行く予定をしています。このように勉強だけでなく、人とのつながりの大切さを教えながら奨学金を渡しています。

歴史としては 1949 年に日本のロータリーが国際ロータリーに復帰し、1952 年に東京 R.C.が米山基金を発表しました。その後、財団設立などを経て、2017 年に財団設立 50 周年、そして本年、米山基金創設 70 周年となりました。

米山奨学金と国際ロータリーの関わりとしては、2002 年にロータリー研究会のプログラムに入り、2004 年に R.I.理事で米山記念奨学事業が称賛されました。そして、2007 年にはロータリーの他地区合同活動として日本全国に広がり、2017 年には米山学友もロータリー学友の一員として加えられ、ソウル国際大会では初の分科会が開催されました。

今年度は 898 人の奨学生が奨学金を受けています。その数は累計で 22,875 人に上ります。第 2760 地区では 53 人の奨学生が奨学金を受けています。国別で見るとイタリア、インドネシア、ウズベキスタン、タイ、ネパール、ベトナム、マレーシア、モン

ゴル、ルワンダ、韓国、台湾、中国の12カ国となります。こうした中、世話クラブからいつも同じ国の方の学生のお世話をしているという声を聞くようになりました。1つの国に集中するのではなく、色々な国から色々な方を取りたいと考えています。



全国統一の採用基準としては、留学の目的、将来の目標、交流への熱意、人間性、人柄、コミュニケーション能力などを論文にして提出していただき、面接に進みます。ここで簡単に採用の流れをご紹介します。まず、6月に東京の奨学会で地区割当数が決められます。前々年度の寄付額で当年度の学生数が決まり、各地区の数字に基づいて人数を振り分けます。簡単に53人と言いますが、この人数は日本全国の中で1・2番の数字です、皆様からいただく浄財によってこれだけの人数が当地区に来るという、他地区から見ると非常に羨ましい姿であると感じています。

人数は6月に決まりますが、奨学会は4月の段階から各大学に有資格者人数のアンケートを取っています。その人数を基に、7月に指定校を定めます。指定校に1人でも該当者がいれば、被推薦者枠を確保しています。約150人の推薦枠を各大学に振り分けて募集しますが、少ない大学は1人、多い大学は30人程の推薦枠を割り振り、推薦していただきます。

8月に募集を開始し、10月15日に締切となります。当地区は約130人の応募があり、その中から次年度の奨学生を選びます。書類審査や面接などを通して選ばれる新規奨学生は、毎年35人程度となっています。1月第1週の土曜日には地区米山奨学委員会の委員、ガバナー、地区スタッフ、そして次年度ガバナー、地区幹事など約30名で約130人の面接を行います。そして、1月下旬には世話クラブをお願いするクラブへ、メールを送っています。本人には3月に通達が行き、4月にオリエンテーションが行われます。世話クラブのカウンセラーには改めてオリエンテーションに集まっていただき、お願いすることとなります。

続いて寄付金についてお話を致します。昨年度は13億4千万円のご寄付をいただきました。この金額は大半が奨学金、補助費になっています。管理費は利子収入で賄い、皆様からの浄財は全て奨学生に使っているというのが現状です。当地区の平均寄付額は15,126円で、全国16位となっています。普通寄付と特別寄付の割合は、全国の個人平均15,971円に対して15,126円となっています。愛知長久手RCの皆様からは昨年度、16万円のご寄付をいただきました。累計としては293万円となっています。愛知長久手RCでは累計で5人の奨学生がお世話になっており、誠にありがとうございます。感謝申し上げます。

学友会が各国にあり、帰国後もつながりを持っています。当地区にも愛知学友会があり、活動を続けています。2023年8月に世界学友会が開催されますので、ご興味のある方は是非ご参加下さいませようお願い致します。

